

映画の中のワンシーンから何を感じますか？

益田 祐美子（高山市出身）

2002年3月、日本イラン合作映画『風の絨毯』（監督カマル・タブリージー、配給ソニーピクチャーズ）の飛騨高山ロケが始まった。

突然の事故で母親を失い心を閉ざした日本の少女さくら（柳生みゆ8歳）が、イランで一人の少年と出会い次第に心を開いていく。ペルシャ絨毯と高山の祭山車をモチーフに、日本人親子とイランの人々の心の交流を描いたこの作品は、中東のアカデミー賞といわれるファジール国際映画祭で、観客賞を含む三部門で賞を獲得した。

撮影当日の朝、主人公さくらの家での葬式シーンのリハーサルをしていると、イラン人のタブリージー監督が、突然、撮影場所とシーンの変更を伝えてきた。

「観光名所として有名な『建造物』ではなく、人が実際に住んでいる、奥行きのある伝統的な高山の『住まい』を使いたい」というのである。

すでにロケ場所には自前の喪服に身を包んだエキストラ出演の地元市民が待機していた。

一瞬、日本側スタッフの顔から血の気が引いた。集まった人々から不満の声が飛ぶ。「これで1日の損害三百万円」。多少の予算オーバーは予期していたが、撮影場所の変更はかなりこたえる。

「日本側が用意してくれた重要文化財の家は、構図としては確かに素晴らしい。写真を撮るなら最高の絵ができる。しかし、僕がとりたいのは、その家で実際に生活している生活臭のようなものが感じられる日本の『住まい』です」。

結局、一日取りやめた葬式のシーンは、撮影場所を変え四十九日のシーンとなって甦った。その中のワンシーンが、左の写真である。

タブリージー監督が、古い町屋造りの『住まい』を選んだのは、日本の家屋の特徴がひと目で分かるから

だという。囲炉裏の手前に父親役の榎木孝明さんが悲壮な面持ちで座っている。夜は寝床となる真ん中の座敷は、襖をとりぞけば仏間になり、その向こうには、母親（工藤夕貴）を亡くした一人娘のさくらがこたつに入

ってもくもくと鶴をおっている。カメラは、一番奥の中窓から見える粉雪までとらえていた。まもなく、大旦那役の三國連太郎が焼香にやってくる。

日本文化を垣間見る外国人にはたまらないシーンだという。人が住まなくなった家は空気が淀んで風化が進む。喜びも悲しみも、人間の感情を包み込んでくれる『住まい』の映像は、文化財の建物では確かに難しい。

さくらの家は古美術商で、イランのペルシャ絨毯も扱っている。写真手前の囲炉裏の周りに敷かれているのは、日本の座布団ではなく、ギャッベと呼ばれる毛足の長いペルシャ絨毯だ。この組み合わせが妙にはまっている。監督に言わせると「見て美しく和にならねば」とい



文化の違いをまじまじと感じたのは、母親が布団から起き上がるシーン。監督は布団のシーツを全てはずしてくれと言った。「布団にこんな美しい模様があるのに、なぜシーツで覆って柄を隠すのだと」。撮影は中断し、日本の生活習慣を説明するのに半日かかった。それでも監督はあきらめきれず、敷布団にはシーツをかぶせ、掛け布団はシーツをはずして撮影することになる。日本人には違和感のある苦渋の決断だった。

現在、第三作目のドキュメンタリー映画『蘇る玉虫厨子』（乾弘明監督、文部科学省特選、映文連優秀映画賞受賞等）が各地で上映されている。宮大工や、彫刻、蒔絵師など、関わった職人は約3800名。国宝「玉虫厨子」の復元にかける人々の壮大な人間ドラマ。出演と語りを



「蘇る玉虫厨子」・「風の絨毯」の上映等の申し込みは下記連絡先まで

映画・コンテンツプロデューサー 益田祐美子

問い合わせはメールとFAXにて

FAX : 03-3302-3779 メール : yuri112@jcom.home.ne.jp

担当した三國連太郎さんは、現場を取材しながら「日本はものづくりの国である。その原動力は、日本古来の伝統文化を支える職人の制作現場にある」という。映画は蘇った玉虫厨子の公開と共に各地で反響を呼び、

記録映画では珍しい全国劇場公開となった。金融危機が叫ばれ、各所で偽造問題が表面化している今だからこそ、本物の職人「技」と、日本人の「魂」の源流に迫る映像を観てほしいものです。

会社案内	パンフレット	チラシ	カレンダー	ポスター	マーケティング・コンサルティング	レーベル	POP・パッケージ	名刺・DM・シール	ショップカード・メニュー	企画・編集・制作 (PR誌・広報誌・会報・会員誌・社内報等)	データ入稿による印刷
------	--------	-----	-------	------	------------------	------	-----------	-----------	--------------	-----------------------------------	------------

何処を狙って頂いても、お応えいたします。

私たちは企画・編集・制作・印刷を総合的にプロデュースする企業です。
「お客様が求めることにYESからスタート」が私たちのモットーです。
いかなるご要望であろうと、お客様の声にしっかりと目を傾け、その実現のための方法をご提案いたします。お気軽にご相談ください。